

「ヒバクシャ国際署名」をすすめる岩手の会ニュース

「ヒバクシャ国際署名」を県民運動に！

—「岩手の会」結成会に90人参加—

昨年12月17日（土）岩手県水産会館大会議室で、「ヒバクシャ国際署名」をすすめる岩手の会の結成会が県内38の団体、個人など約90人の参加で開催されました。

結成会は、岩手県原爆被害者団体協議会（以下：県被団協）と原水爆禁止岩手県協議会（以下：県原水協）が11月初旬から、



県内の多くの団体に賛同参加を呼びかけ、直接訪問するなど開催二日前までに60団体の賛同を得て当日を迎えました。

第一部では、日本原水爆被害者団体協議会（略称：日本被団協）の木戸季市事務局次長が自らの長崎での被爆体験を織り交ぜながら「ヒバクシャ国際署名」の意義と見通しを語り、参加者に核兵器廃絶への展望と運動に取り組む勇気を与えました。



第二部結成会では、呼びかけ団体を代表して広島で被爆した伊藤宣夫県被団協会長が「私たち被爆者が生きているうちに核兵器廃絶を実現してほしい」と「ヒバクシャ国際署名」運動への参加を訴え「一緒に平和な世界を残すために頑張りたい」と開会のあいさつを述べ、下村次弘県被団協事務局長が結成会までに県老人クラブ連合会や県地域婦人団体協議会、県医師会、県農協連、県漁連など62団体が賛同し、検討している団体が数多くあると報告しました。これまで10自治体の首長と5市町村の議長が署名し、平和首長会議加盟都市が県内30自治体（未加盟3町～雫石・山田・大槌）であることを明らかにし、地域、自治体ぐる

みの運動を提起しました。経験交流では、いわて生協、新日本婦人の会からの発言があり、原水協花巻地区の代表からは、「花巻では住民過半数を目標にする」との決意が述べられました。結成アピールが全会一致で承認され、最後に、参加者全員が「ノーモア ヒロシマ、ナガサキ」「ノーモア ビキニ」「ノーモア ヒバクシャ」「ノーモア ウオー」を齋藤政一県被団協名誉会長の音頭で唱和し決意を固めました。



核兵器のない世界を実現する年に！

国連総会は昨年末、113カ国の圧倒的賛成で、核兵器を禁止し、廃絶する条約の交渉を今年の3月と6～7月に行うことを決議しました。反対35、棄権13。国際社会が核兵器を禁止、即ち「違法化」することは、核兵器のない世界の実現への重要な一歩となることは疑いありません。これまでも大量破壊兵器である生物、化学兵器は、国連でその使用を「非難」する決議が採択され（1966年）、それに基づく条約が（1975年）採択されてきました。生物兵器条約は75年、化学兵器条約は97年に発効しました。もともと残酷な大量破壊兵器である核兵器を禁止し、廃絶する条約づくりに、人類はようやく踏み出すようになっていきます。

核兵器のない世界へ、世界が前進しようとしているとき、安倍晋三政権は、今回の国連決議に反対するなど、これに逆行する態度をとっています。唯一の戦争被爆国の政府として、恥ずべき姿です。この姿勢を変えさせることは、日本の運動の国際的責務です。ヒロシマとナガサキで被爆した9人の被爆者が訴えた「ヒバクシャ国際署名」を日本の国内で大きく取り組み、日本の政府代表が交渉会議に参加し、核兵器の非人道性を訴え、禁止廃絶の先頭に立つよう追い込んでいきましょう。

岩手の会「もその一翼を担う取り組みに全力をあげましょう。」

結成会までの署名の到達は8007筆。署名は、各団体が自主的に目標を決め行い、集約は三カ月ごと（3月、6月、9月、12月）を目途にします。

特に、3月の国連交渉会議を重視した取り組みが大事です。各賛同団体の頑張りをお願いし、期待します。また、街頭でも、目につく運動を継続します

